

畳の新調 作業

新調とはお部屋の寸法を測って畳を土台（畳床）からすべて新しく作り替える事です。

新調の目安は、畳を新しくしてから20年以上経っていて畳の凸凹や隙間が酷くなってきた頃が新調の目安です。



畳を入れ替えるお部屋の寸法を測ります。その後、お部屋の畳の枚数で割付をして一枚一枚の寸法を計算します。



框（かまち）を縫い付ける機械の上に畳床を置いて寸法に合わせて框側の畳床を裁断する作業から始めます。



今回使用するのは建材畳床Ⅱ型です。

インシュレーションボード 15mm
ポリスチレンフォーム 35mmの組み合わせです。



今回作る畳は長方形の畳を作ります。

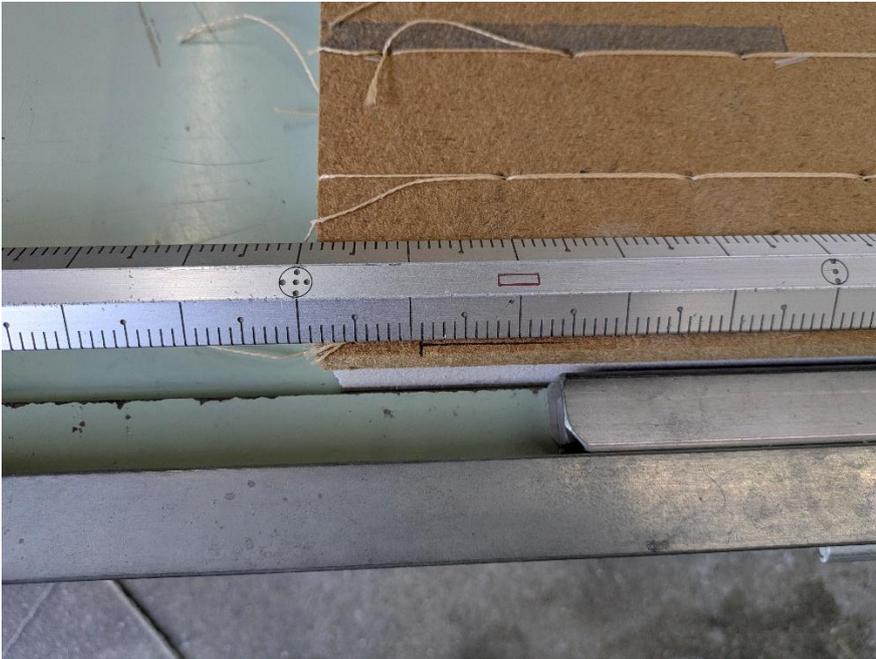
畳の上前の位置を決めて印を入れます。



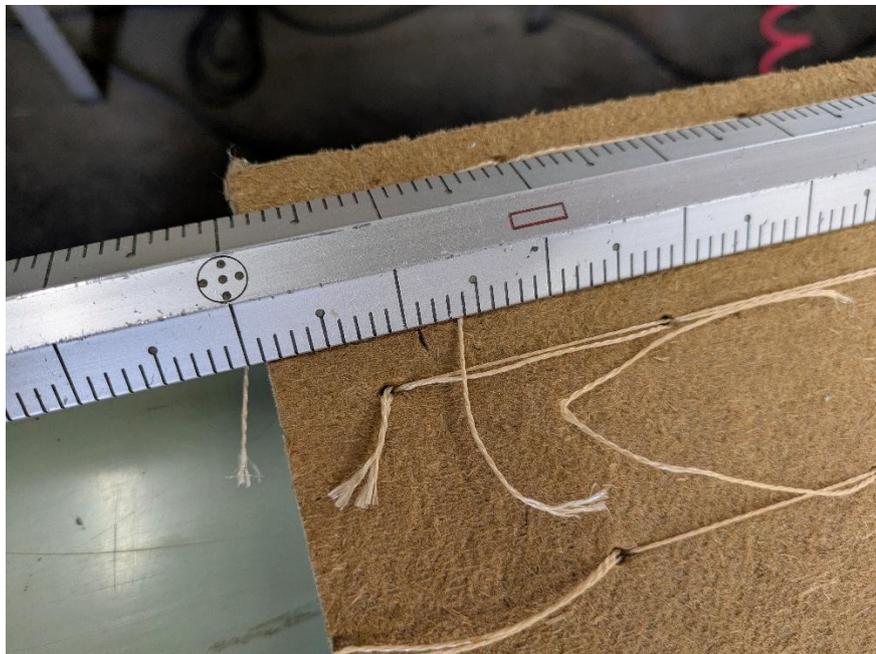
反対側にも先程と同じ位置に印を入れます。この時に印の位置がずれると長方形の畳はできません。



片方の畳床を裁断しました。次に反対側の畳床を裁断します。



畳の寸法に合わせて畳床を裁断する位置に印を入れます。



反対側も同じように裁断する位置に印を入れます。



畳床を裁断する位置に合わせて畳床を押しえます



畳床を裁断しています。



畳床が寸法通り裁断できたかを確認します。



同じように反対側も確認します。

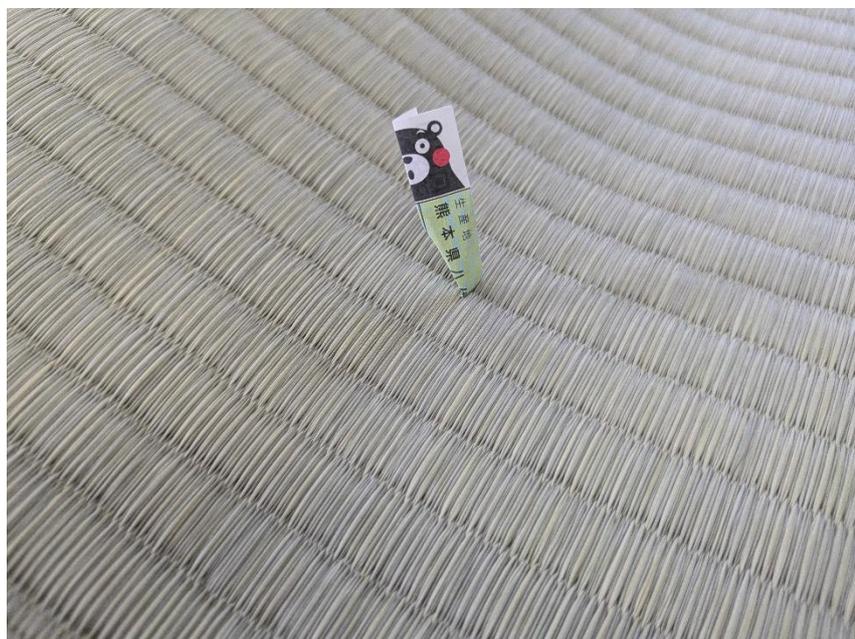
これで框側の畳床の裁断が終わりました。



これから畳表を縫い付けます。



今回使用する畳表です。
熊本県産畳表の関西間サイズを使用します。
作る畳の大きさは関東間サイズです。

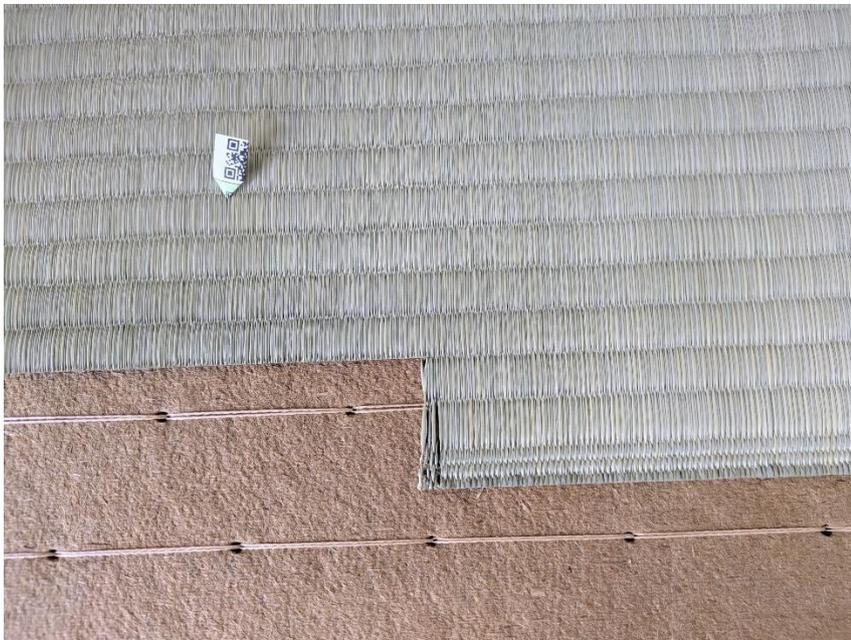


熊本県産畳表は生産者がわかるよう名前が書かれたタグが付いています。



畳の上前の畳縁が付く位置に目押し定規を置き余分な畳表を切り落とします。

畳表の両端と真ん中の3ヶ所切り落とします。



今回は関西間（大きいサイズ）の畳表を使用して関東間（小さいサイズ）の畳を製作するので通常の畳縁の付く位置より内側に畳縁が付きます。

右側が関西間の畳縁が付く位置です



上前の畳表を切り落としました。



畳表の上前と畳床の上前の位置を合わせてこれから畳表を框に縫い付けます。

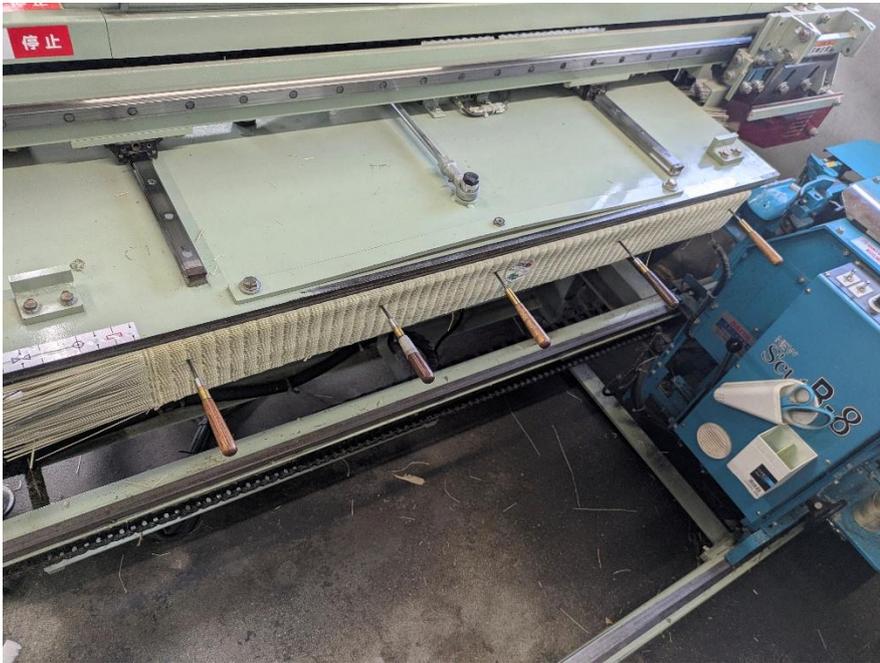


まず初めに片方の框の両端を針で留めます。



もう片方の框も手で引っ張りながら両端を針で留めます。

四カ所針で留め終わるとイ筋（イ草の筋）を確認をします。



イ筋がずれないように
針を多く留めてから畳
表を押さえます。



框をミシンで縫い付け
ます。



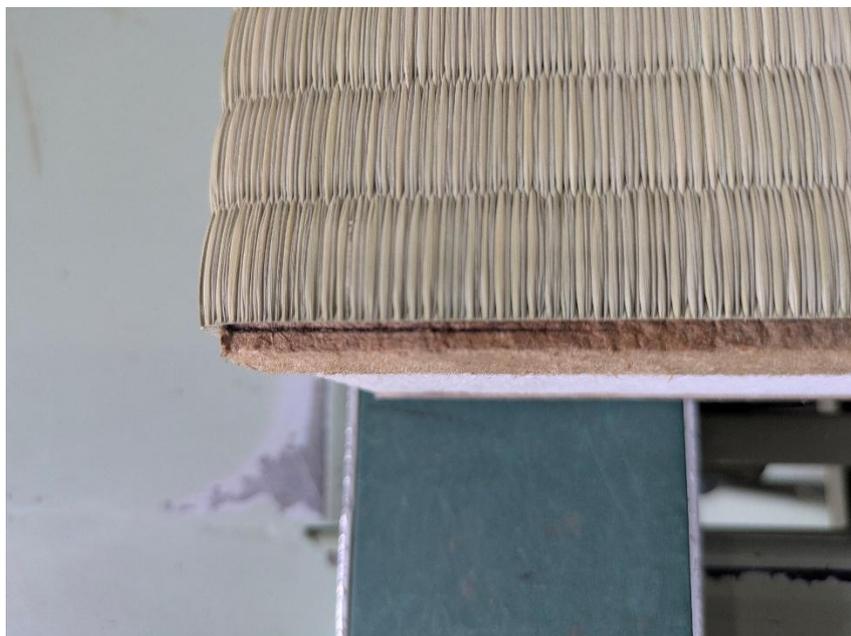
縫い終わりました。



今度は畳表を張り付けて反対側の框を縫い付けます。



畳床の上前の位置と畳表の上前の位置が合っているか確認します。



反対側も上前の位置が合っているか確認します。



今回使用する畳表は藁草がたくさん詰まっているので畳表にシワが出ないように定規を下に置いて畳床をそらしてから畳表を張ります。



表張り機に畳表を挟み込みます。

この時にイ筋が揃っているか再確認します。



畳表を張りました。



畳表を張った状態で畳表を押しえます。
畳表の余分な部分を切り落とし藁草が外れない様に留めます。



框をミシンで縫い付けます。



両方の框縫いが終わりました。

これから畳表を裁断します。



定規を置いて上前の畳表を切り落とします。



同じ様に残りの畳表も切り落とします。



長い定規を使って畳表の上前を揃えます。



定規で上前の位置を揃えて針で留めます。

上前の裁断が終わりました。



次は下前（壁側）の裁断です。

寸法通り下前の両端と真ん中に切り目を入れます。



切り目を入れた所に定規を合わせて畳表を切り落とします。



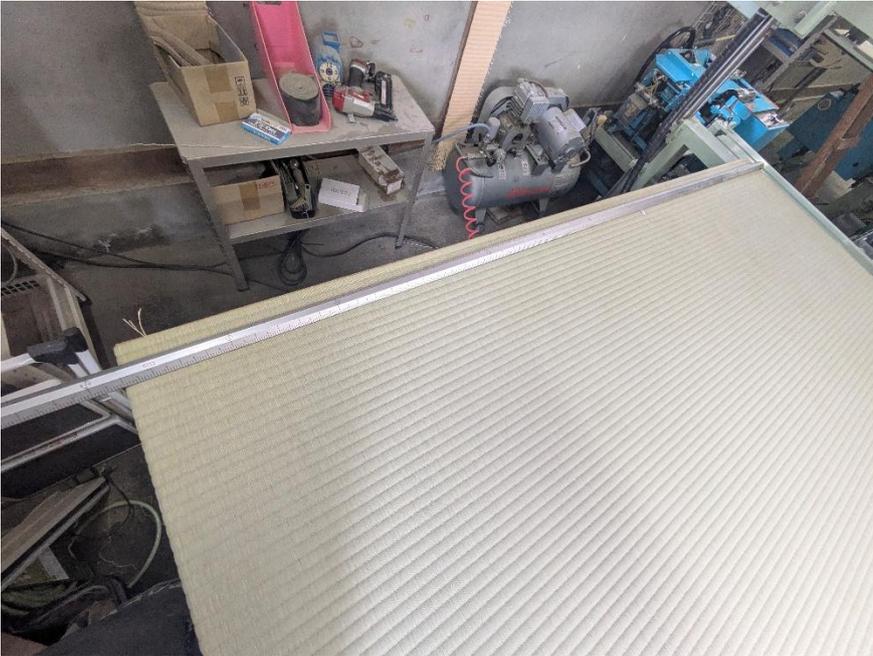
切り目の間の畳表を裁断しました。



両端の余った畳表を切り落として畳の寸法通り裁断できているか確認します。



幅差しで切り目を入れた3カ所の幅（短い方）の寸法を検寸します。



長差しを使って丈（たけ、長い方）の寸法を検寸します。



反対側も同じように検寸します。



畳の検寸が終了しました。



畳表に付いている染土を掃除機で吸い取ります。



右半分が染土を吸い取った後、左半分は吸い取る前です。



染土を掃除機で吸い取りました。
これで框縫い作業が終了です。



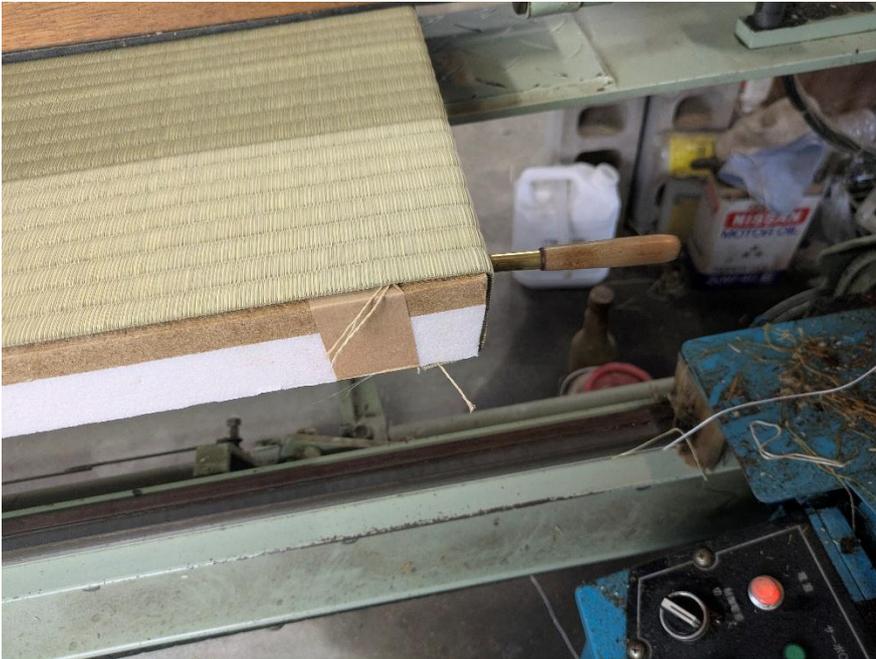
次に両用機という機械
を使って畳縁を縫い付
ける作業を行います。



両用機の上の畳を載せ
ます。



両用機に畳を載せて上
前を定規に合わせま
す。



定規を外して畳の端のイ筋を揃えて針で留めます。



反対側も同じようにイ筋を揃えて針で留めます



畳縁を縫い付ける位置に畳縁と縁下紙を裏向けてセットします。

縁下紙を使うことにより畳の側面の角が補強されます。



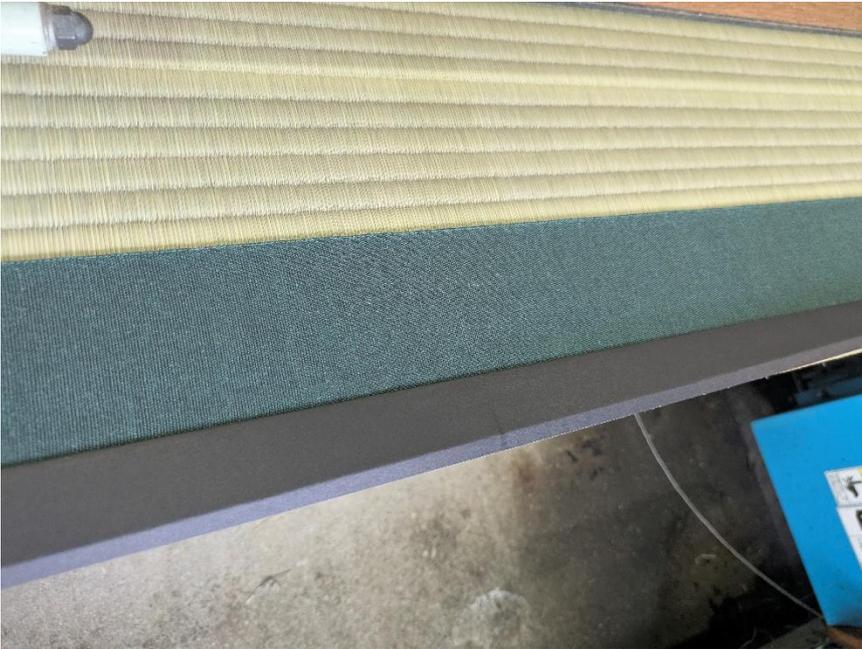
ミシンで平刺し縫いを
します。



平刺し縫いをしながら
畳床を裁断します。



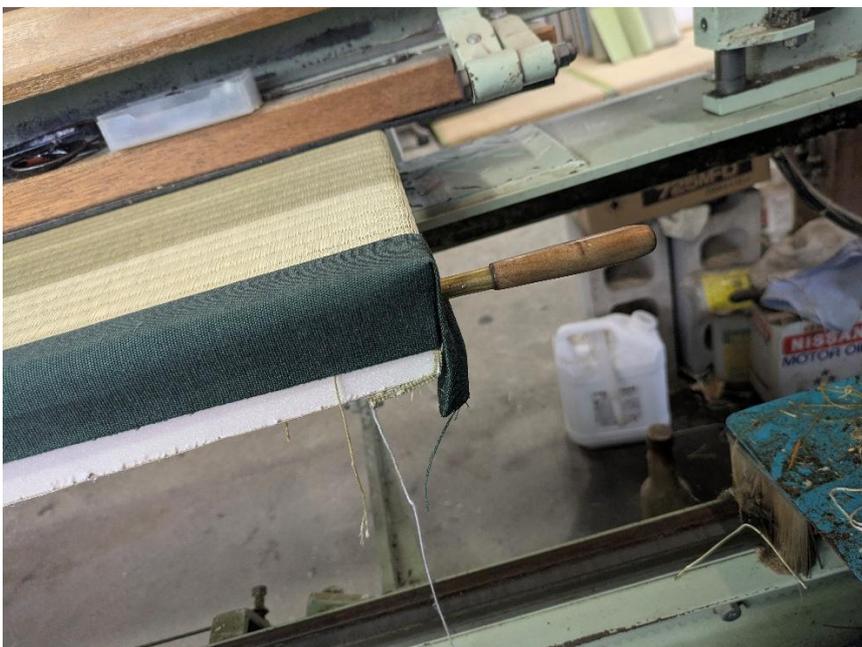
平刺し縫いが終わりました。



縁下紙を折り目に沿って折り返します。



畳縁を折り返して畳の側面に沿って形をつけます。



畳の隅（畳縁の端）を角が出るように畳縁を折り曲げて針で留めます。
畳を作る上でこの作業は重要で出来が悪いと畳の見栄えも変わります。



反対側の隅も同じように畳縁を折り曲げて針で留めます。



畳の隅が解けないよう
タッカーで針を打ち付けます。

糸で縫い留めることも
あります。



同じ様に反対側も畳の
隅が解けないようタッ
カーで針を打ち付けま
す。



これから側面の畳縁の
浮いた所をミシンで縫
い付けます。
これを返し縫いと言
います。



畳の厚みを調整するテ
ープを下にはさみなが
らミシンで返し縫いを
しています。



返し縫いが終わりました。
これで上前の縁付けは
終わりです。



畳を反対側に廻して下前を定規に合わせてます。



上前と同じ様に畳の端のイ筋を揃えて針で留めます。



反対側も同じようにイ筋を揃えて針で留めます



畳縁と縁下紙をセットして畳床を裁断しながらミシンで平刺し縫いをします。

下前は上前と違い畳の幅寸法が場所によって変わるので畳表の端に沿って畳床を切っていくように注意しなければなりません。



平刺し縫いが終わりました。



縁下紙と畳縁を折り返して畳の隅を針で留めます。



反対側も同じように針
で留めます



畳の隅をタッカーで留
めてから畳の厚さ調整
のテープを挟んでミシ
ンで返し縫いをしま
す。



ミシンで返し縫いをし
ています。



返し縫いが終わりました。



下前の畳縁を縫い付けました。これで畳の縁付け作業が終わりました。



最後に畳の幅（はば、短い方）が寸法通りに仕上がっているか検寸します。



今回作った畳は長方形なので対角線の長さが合っているか確認します。



反対側の対角線の長さを確認しました。

6帖間以上のお部屋の真ん中の畳は長方形になっています。畳を製作する場合はまず初めに長方形の畳を作ってから他の畳を作っていきます。



畳の新調が完成しました。

